モノづくりの新たな成長に向けて

地域活性化リレーションポジウム

モノづくり推進会議と日刊工業新聞社は7月29日、浜松市中区のオークラアクトシティホテル浜松で「地域活性化リレーションポジウムin浜松with三遠南信」を開いた。テーマは「モノづくりの新たな成長に向けて」。鈴木泰信ＮＴＮ会長が基調講演するなど、浜松市・三遠南信（東三河、遠州、南信濃）地域でモノづくりを展開する企業の経営者らが講演やパネルディスカッションに登壇。それぞれがモノづくりにかける熱い思いを語った。聴講者250人が訪れた。

in 浜松 with 三遠南信

モノづくり推進会議
超モノづくりへの挑戦

基調講演

新たな成長に向けて
～〝多元的世界観〟で仕事を〝面白く〟～

NTN会長　鈴木 泰信氏

今日はネクタイをしてきた。先日パリで買ってきた。出張した際にネクタイを数本購入するのだが、円とユーロの為替を考えると現在いかに円高なのかと考えてしまう。この状況で日本の企業はどうモノづくりをしていくのか。また世界に打って出ていくのか。東日本大震災からなかなか立ち直れないでいるが、今は非常に重要な時期だ。

ＮＴＮは１９１８年に創業した。２０１１年３月期の売上高は５３０１億円。ベアリングは鉄道車両や建設・工作機械、風力発電機などの産業機械向けに展開している。東海地区では宇宙航空機産業が注目されているが、ジェットエンジン用などのベアリングはＮＴＮが国内トップだ。自動車部品は等速ジョイントのシェアが世界2位で、国内ではダントツ。特に静岡県を自動車分野向けの発信基地と位置づけ、磐田製作所（磐田市）を中心に等速ジョイントなどを世界展開している。

私は15―16年前、磐田製作所に2年間ほど電車で通っていた。現在磐田市には研究開発センターもある。ここで自動車関係を中心に新しい生産技術を追求し部品のモジュール化などを進めているほか、次世代商品の研究開発を加速していく。風力発電機などは今後世界で需要が高まる。今も直径2㍍を超え、重さ2㌧にもなるベアリングを風力発電機向けに生産しているが、発電量を増やすためにさらに大きなベアリングが求められる。危機管理の観点から三重県・桑名のほか石川県・能登の工場でも風力関係のベアリングを生産し、日本海から中国など世界各地に輸出していく。

一方で電気自動車の時代が来れば極論すれば自動車向けのベアリングは不要になってしまう。これに危機感を感じて03年頃からチームを編成しアイデア出しにも取り組んでいる。最近は女性チームが優秀だ。モノづくりにおいて女性の活躍に非常に期待している。そこで09年には磐田製作所に「ベアキッズらんど」を開園した。これは従業員の子育て支援のためにつくった企業内託児所だ。またダイバーシティー（多様性）への対応として障害者がいきいきと働ける職場「夢工房」も開設した。磐田製作所に訪れた際は必ずここに顔を出すようにしている。

ＮＴＮは世界のベアリングメーカーの中で中国進出が遅かった。戦前には遼寧省・瓦房店に現地工場があったが、その後は中国に出て行くことがなかった。ただ人口13億人を抱える中国市場に目を向けないわけにはいかない。私は01年に社長就任後、04年までに五つの新会社を中国につくった。5月には中国で初の技術開発センターも上海に開設した。技術のポケットを多く持たなければ応用できるものが出てこない。グローバルでの研究体制は日本とフランス、さらにプラスαを考えているが、そのαが中国になるかもしれない。

フランスにはグローバル戦略の重要な拠点がある。仏ルノーの自動車部品会社ＳＮＲを買収し、グループ傘下に入れた。数十年かけても欧州市場でのシェアは４％程度で、海外展開の壁の厚さを感じていた。しかし現地メーカーがグループに入ったことでシェアが十数％に高まった。研究開発拠点が日本とフランスにできただけではなく、ブラジルやルーマニアなど単独では進出が難しい地域でも工場を有効活用できるようになった。

グローバル人材の育成も急いでいる。年2回の経営会議は英語で実施している。世界ＱＣサークル大会も三重県・桑名で開いている。世界の現場で働く人々を日本に招き、各地のＱＣサークルの状況を発表してもらい、お互いにすり合わせをする。「現地・現物・現人」という考え方が大事だ。現地で、現地の材料を使い、現地の人材を活用し、いかにコストを下げてモノづくりができるか。そして研究開発拠点がある日本から中国など世界に何を持ち出していけるのかをしっかりと考えなければならない。

グローバルで利益を出し、日本に還元する。日本の雇用も守る。これが大きな使命だ。中国も日本を追いかけてきている。この距離を縮められないように日本では常に新しいものを創出していかなければならない。商品開発のマザーセンターは磐田と桑名にあるが、ここでは少なくとも5―10年先の新しいモノを生み出すための開発を進めている。創業１００周年を迎える18年3月期には1兆円を目指す。

最後に皆さんに世界地図を思い浮かべてほしい。日本が中心のメルカトル図法の地図が浮かぶと思うが、欧州では欧州中心の、米国では米国が中心の地図になる。豪州では南が上になった豪州中心の地図もある。しかし地球を外から眺めると上も下もない。固定観念で世界を見ず、グローバルな視点を持てばガラパゴス化を防ぐことにもつながる。多元的な世界観が重要であり、固定観念を払拭してほしい。

仕事は面白くなければならない。桜を眺めるのは楽しいが、花は1年やそこらでは咲かない。じっくりと良い木を育て、その木が花を咲かせた時が面白い。モノづくりの面白さを味わい、さらにそれによって人を楽しませることが大切だ。

固定観念 捨てること
木を育て花を咲かせる心を

ごあいさつ

浜松市長
鈴木 康友氏

地域を挙げて新産業創出

浜松市は今年、市制100周年の節目の年を迎えた。人口82万人の政令指定都市になった浜松市の発展は、地域に立地する世界的企業と高い技術力を持つ中小企業に支えられてきた。次の100年に向けて新たな一歩を踏み出すにはさらなる産業推進が必要だ。モノづくりは時代とともに大きく変化する。世界的な産業構造の変化の中で日本は壁にぶつかり、この地域も克服しなければならない課題がある。産学官連携でそれに取り組み、今後の発展の礎を築いていかなければならない。

三遠南信地域は全国でも例をみない県境を越えた地域連携が進んでいる。さまざまな産業が集積し、地域を挙げて新しいモノづくりに取り組んでいる。

今回のシンポジウムをきっかけに新産業創出に向けたネットワークが広がってほしい。

ごあいさつ

日刊工業新聞社社長
井水 治博

日本の元気は地域から

東日本大震災でモノづくりは大きなダメージを受けた。自動車や工作機械、ロボットなど多くの産業で生産に影響がでた。一方でそれらのサプライチェーンは中小企業のモノづくりの力によって支えられていると再認識された。厳しい状況が続くが、連帯力でそれを乗り越えようとする動きも多くの現場で起きている。日本は困難に直面した時に大きな力を発揮する。それがＤＮＡとして受け継がれている。

日本が元気になるにはまず地域が元気ならなければならない。浜松市は日本のモノづくりのメッカである。自動車をはじめ強い産業の原点がここにあり、まさに日本を支えている地域だ。

日刊工業新聞社もモノづくりの総合情報機関として、さまざまな情報発信を通じて日本を元気にすることが使命だと感じている。

KANSEI カフェイベント

参加費無料　FINAL

感性価値の未来を語る

モノづくり推進会議
超モノづくりへの挑戦

日時　2011年9月7日（水）13：30～16：30

会場　TEPIAホール4F（財団法人機械産業記念事業財団）
（東京都港区北青山2-8-44、TEL：03-5474-6125）
http://www.tepia.jp/access/

主催：モノづくり推進会議（事務局・日刊工業新聞社）

モノづくり推進会議はこれまで、感性価値について意見交換する異業種交流会「ＫＡＮＳＥＩカフェ」を過去10回、主催または共催として実施してきました。品質や機能、コストといったモノづくりの従来価値に、感性価値を新たな価値軸としてとらえることにより、これまでと異なる視点でモノづくりのあり方を考える機会を創出してきました。

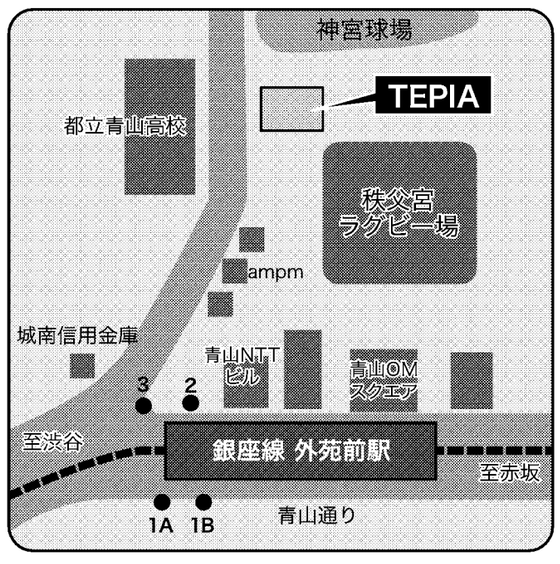
こうしたなかで、モノづくり推進会議が２０１１年9月末に終了し、同年10月からリニューアルしてスタートいたします。これを機にこれまでのＫＡＮＳＥＩカフェの活動のとりまとめを行い、感性価値の成果と今後について考える場にしたいと思います。

講演者/コーディネーター
小阪 裕司 氏
オラクルひと・しくみ研究所 代表

×　スピーカー
竹綱 章浩 氏
コクヨ(株)　本社統括部広報グループグループリーダー

×　スピーカー
大野 智史 氏
朝日ウッドテック(株)　執行役員商品部長

スケジュール
●13：00　ドアオープン
●13：30～13：35　これまでのＫＡＮＳＥＩカフェ
●13：35～14：35　講演「感性価値の現状と未来」
オラクルひと・しくみ研究所代表
小阪　裕司 氏
●14：35～14：45　休憩
●14：45～16：25　トークセッション「感性価値の活用方法」
●コクヨ株式会社
本社統括部広報グループ　グループリーダー
竹綱　章浩 氏
●朝日ウッドテック株式会社　執行役員商品部長
大野　智史 氏
●オラクルひと・しくみ研究所代表
小阪　裕司 氏
●16：25～16：30　「ＫＡＮＳＥＩカフェの今後について」



お問い合わせ先：日刊工業新聞社　「モノづくり推進会議事務局」　〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1（住生日本橋小網町ビル）
担当者：村山・神保　E-mail：monodzukuri@media.nikkan.co.jp　TEL：03-5644-7608　FAX：03-5644-7209